



やっぺす！起業支援ファンドとは

本事業は、内閣府の復興支援型地域社会雇用創造事業の一環で実施した、被災地における起業と雇用を創造することを目的に、被災地域が抱える社会課題を解決するための新規性のある事業を行う「社会的企業」の起業を支援する事業です。

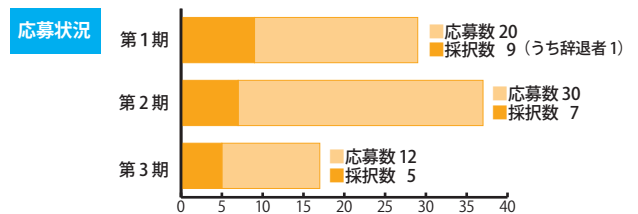
石巻市のほか、東松島市、南三陸町等、宮城県北部を中心に起業を志す女性と若者 20 名に対し、起業支援金のほか、起業に向けて必要なノウハウやスキルアップの機会を提供しました。

NPO 法人石巻復興支援ネットワークは、社会起業家支援に実績のある関西の NPO 法人 edge とコンソーシアム（連合体）を構成し本事業に取り組みました。

支援内容

起業支援金の提供	月例合同メンタリング
合同研修・神戸研修	メンター・専門家派遣

開催期	支援金額	支援対象期間
第1期	250万円	2012年7月-2013年3月(9か月間)
第2期	250万円	2012年8月-2013年3月(8か月間)
第3期	200万円	2012年10月-2013年3月(6か月間)



活動写真



プレゼン審査



合同研修



神戸研修




合同メンタリング

復興支援型地域社会雇用創造事業とは

「社会的企業」の起業、「社会的企業」を担う人材の育成を支援し、被災地での起業と雇用を創造することを目的とし、復興施策の1つとして内閣府が実施するもので、事業期間は平成25年3月末までを予定。有識者により構成される内閣府選定評価委員会によって選ばれた12事業者が、起業支援・人材育成プログラムを実施しました。


NPO 法人石巻復興支援ネットワーク



子どもの環境教育、子育て中のお母さん方の相談会等を運営していた「環境と子どもを考える会」が母体となり、支援団体「つなプロ」のメンバーと2011年5月に合同で立ち上げ、12月にNPO法人化。地元住民が主体となり、子どもの居場所づくりや仮設住宅地域でのコミュニティ形成の促進や手仕事（内職）の創出等を行う。2012年度は「内閣府復興支援型地域社会雇用創造事業」の採択を受け、「やっぺす！起業支援ファンド」を実施。

<http://yappesu.jimdo.com/>

NPO 法人 edge



社会が抱えるさまざまな課題を、ビジネスの手法を使って解決する“社会起業家”の育成や支援を行う関西のNPO。阪神・淡路大震災を契機に活動を始めたNPOリーダーや社会起業家らが中心となり2004年に発足。2005年より毎年1回、「社会起業家をめざす若者のためのビジネスプランコンペ」を開催し、多くの若手社会起業家を輩出してきた。2009年から3年間、内閣府地域社会雇用創造事業を実施（NPO 法人 ETIC. からの委託事業）し、31人の若者の起業をサポート。

<http://www.edgeweb.jp/>

連絡先

特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク

住所：〒986-0825 石巻市穀町12-18 石巻駅前ビル4階 TEL/FAX：0225-23-8588

南三陸

地元の海産物を使った食事処で 観光地として南三陸のブランド化を推進

成澤 英子 *Eiko Narisawa*

南三陸町戸倉在住。19歳より和裁師として地元住民の着物の仕立てを行う。また、ホテルや民宿での調理と配膳を担うほか、戸倉漁協の女性部で地域の行事にて御馳走を振る舞ってきた。震災では自宅や車を失うなど大きな被害を受けたが、避難所では炊事場担当として多くの被災者やボランティアへ食事の提供を行うなど活躍。



事業概要

もともと風評被害で漁協がホタテの販路に困っていた折、カキ小屋ならぬ「ほったて小屋」で売ればと思いついたのが発端。南三陸を観光地としてブランド化し、交流人口を増やすため、地元の新鮮な海産物をふんだんに使った食事処の開業を計画。旧陸前戸倉駅前の戸倉ドライブイン跡地に2012年10月に開店した。

地元の家庭料理を週替わりで提供する「ばっばのごはん」や、海産物を使った料理を提供し、好評を博している。また、運営には、高台の仮設住宅に閉じこもらざるを得ない女性を雇用するなど、地域の活性化にも繋がっている。



事業成果

今後に向けて

南三陸町内でも罹災率が特に高い戸倉地区での創業であったため、ゼロから水道工事を行うなど想定外の困難もあったが、保健所や消防法の規定をクリアして、2012年10月ようやくオープンにこぎ着ける。もともと想定していた観光客への海産物を主体とする料理に留まらず、地元在住の方々や中長期滞在する工事業者的な方々のニーズにも対応し、肉料理やラーメンといったメニューも開発、提供している。今後は赤提灯を入れて、地元住民の交流というニーズにも対応すべく、夜の居酒屋営業にも力を入れたいと考えている。



ほったて小屋

〒986-0781 宮城県本吉郡南三陸町戸倉字転石 4-1
☎ 0226-46-9974
営業時間 11:00-19:00 定休日：水曜



南三陸

戸倉発祥の繭細工で 女性の雇用を創出し、復興の足掛かりに

松岡 由香利 Yukari Matsuoka

南三陸町戸倉在住。戸倉漁協婦人部で海産物加工に従事する傍ら、嫁ぎ先が戸倉で最大の養蚕農家でもあったため、伝統工芸品の繭細工を22年間に渡り、伝承してきた。現在も地元小学校の総合学習にて、繭細工の指導を行っている。かつて中越地震の復興のために取り組んだ繭細工を、自身と南三陸復興のために事業化を構想。



事業概要

地震発生時は小学校で繭細工の授業中だったこともあり、一度は繭細工から離れようとしたが、繭細工が訪れたボランティアたちから好評を博し、数百個の繭細工の作成依頼を受ける。避難所から仮設住宅に移り住んで細々と繭細工をつくりはじめたが、これをきっかけに仮設住宅に閉じこもるのではなく、同じ境遇の女性同士で助けあいながら繭細工をつくることで、自身を含めた地元の復興に活かしたいと考え、事業化に至った。現在は仮設住宅地の一角にもうけた事務所で、一つひとつを手づくりで、想いをこめて繭細工づくりに取り組んでいる。



事業成果

今後に向けて

繭細工の商品は、動物等をモチーフとした小物の他、ブライダルブーケ、コサージュなどで、商品ラインナップを拡充してきた。2013年春からは、南三陸の特産物を取り扱う代表的なネットショップ「南三陸 de お買い物」にて商品販売をスタートする予定。この他、ボランティアで南三陸を訪れた方への体験教室も随時行っている。繭細工の作り手には、被災して職を失った地元女性たちを採用している。現在は仮設住宅に暮らす3人の女性が午前中に勤務。生きがいづくりや、子育て期にある女性と子育てを終えた女性の交流にもつながっている。



まゆ工房 彩 (いろどり)

〒986-0781 宮城県本吉郡南三陸町戸倉水戸辺仮設
☎ 090-7566-3547
営業時間 9:00-17:00 定休日：土日（応相談）



石巻

津波に耐えた古民家を再生し、 地域に再びにぎわいをつくりだす

田邊 寛誠 *Hiromasa Tanabe*

新潟県生まれ。法政大学経営学部卒。医療系システム会社のSEを経て中小企業診断士を取得後、経営コンサルタントとして活動。2011年12月にボランティアで石巻市の尾ノ崎を訪れた際、古民家を活かした事業に着目。2012年3月に石巻市北上町へ移住。地域住民らと古民家再生やまちづくりに取り組むため、株式会社を設立。



事業概要

人口15万人の石巻市の中にあつて旧河北町尾ノ崎地区は道路交通網が未発達のため、人口流出が著しい。津波に耐えて残つた貴重な古民家を維持できる状況にないことからどんどん取り壊しになっていく様子に「故郷の風景が失われていく」との危機感を募らせ、事業に取り組む。明治時代に気仙大工という職人集団によりつくられた古民家は、二重の梁など稀少な特徴を持つ。自然とともにある古き良き日本の住宅や生活を体験し、語り継げる地域環境をつくることこそ、都市圏との大きな差別化であり、田舎ならではの集客・経済活性をめざした。



事業成果

今後に向けて

関西からの支援団体との連携により、被災地での古民家再生を目的としたボランティアバスツアーを企画、運営。これまでに7回実施し、累計約150名の参加者に古民家の修復体験の機会を提供。庭の清掃や泥だし、床の解体などを行う他、カキの養殖に使う網の修繕も行うなど地区全体の復興支援にも協力してきた。

尾ノ崎ではこの古民家再生プロジェクトを入り口として、今後、古民家レストラン営業や防災教育の拠点として事業活動の幅を広げ、モデル化することで、東北の被災地を皮切りとした日本中の「田舎」活性化へとつなげていきたい。



ジャパンヘリテイジ株式会社

〒986-0202 宮城県石巻市北上町橋浦字大須 183-2
<http://www.facebook.com/onosakikominka/>



石巻

石巻のIT化をめざして 復興の原動力となる若者を育成する

古山 隆幸 *Takayuki Furuyama*

石巻市出身。石巻工業高校卒業後、大学在学中に東京で起業。IT系WEB制作会社を
経営する傍ら、震災後は“地域産業×IT”という観点で石巻のIT化を目指すソフトウェ
ア開発と開発者の養成拠点、イトナブ石巻を立ち上げた。出身高校ではソフト開発
の講師も務める。雑誌「Mac People」にてコラム連載中。



事業 概要

地元石巻のこれからの産業活性化を見据え、石巻にIT
産業を興すことをめざす。プログラム開発者やデザイ
ナーの養成に取り組むため、地元の高校生や大学生た
ちをはじめ、誰でもアプリケーションの開発やデザイ
ンなどを学び、挑戦できる場として「イトナブ」を立ち
上げる。「イトナブ」にはITを学ぶ、ITイノベーション、
ITナビゲーター、営むといったメッセージが込められ
ている。外部から講師を招いての勉強会を開催するほ
か、石巻の復興起業家たちにもコワーキングスペース
としてスペースを開放している。



事業 成果

今後に向けて

毎月、高校生や大学生向けに「東北TECH道場」や「ITブ
ートキャンプ」を開催。スマートフォンのアプリ開発講座
の講師にはiPhoneで一躍有名になった「セカイカメラ」
の開発者など、世界的に活躍する人材を招いている。
アプリ開発の面白さは学んで試してすぐに結果が出る
ところ。現在ではイトナブに参加する大学生や高校生の
なかに、他の仲間たちにアプリ開発をレクチャーできる
ようになり、活躍している。10年後、石巻復興の原動
力となる若者たちの育成と、石巻にIT産業を根付かせ
ることをめざし、着々と進展している。



イトナブ石巻

〒986-0822 宮城県石巻市中央 2-10-21 サトミビル 1F 右
☎ 080-3445-7792
✉ info@itnav.jp
http://itnav.jp



宮城県

様々なステークホルダーと連携し 効果的な除染システムの開発に取り組む

三野 朋美 *Tomomi Mino*



大阪市在住。インテリアコーディネーター。外資系研修会社に勤務し、退職後に東日本大震災における放射性物質による汚染状況を知り、金沢大学除染プロジェクトチームの事務局スタッフに就任。2012年7月、特定非営利活動法人復興 Design Network を有志と共に設立。除染システムの開発に取り組む。

事業概要

大学・行政・有識者・国内外の投資家など、様々なステークホルダーと連携し、水質汚染・土壌汚染を主とする環境問題、開発途上国における貧困問題を持続可能な形で解決すべく活動している。特に、東日本大震災に起因する放射性物質による水質汚染・土壌汚染は、日本が世界に先駆けて解決すべき最重要課題の一つであり、水質汚染・土壌汚染の問題解決を推し進めて、被災地の「尊厳ある復興」を目指す。



事業成果

今後に向けて

海外投資家からの資金調達をおこない、金沢大学で除染機械の技術開発を推し進めており、テスト段階にある。臨床段階はこれからの予定。どうしても機械が大型化してしまうため、なるべくなら2トン車に満たない規模まで小型化したいと考えている。また、除染に際しては地域住民の心のケアにも配慮する取り組みを実施している。2013年度には、除染機械を1台販売することを目標に掲げている。

特定非営利活動法人復興 Design Network

〒658-0032 兵庫県神戸市東灘区向洋町 6-9 神戸ファッションマート 10F
kizuna@technology-japan.org
<http://www.technology-japan.org/>

石巻

ダイビングサービスで海の復興、 三陸の海でのマリンスポーツの復活を実現

高橋 正祥 Masayoshi Takahashi

仙台市生まれ。神奈川でダイビングショップに勤めていたが、震災後は潜水捜索救難協会の活動に参加し、潜水土として遺体捜索等のボランティア活動を行う（現在も継続中）。2012年5月に葉山のダイビングショップを退社し、同年7月に祖父と父の実家のある石巻市でダイビングサービスを開業。



事業概要

三陸の海の現状や復興していく様を一人でも多くの人に伝えたい、海を楽しく体験してもらうことで東北の海を元気にしたい、東北の海と訪れるダイバーを結ぶ架け橋になりたいという願いを込めて、ダイビングショップ「High-Bridge」を開業。

三陸地方でのダイバーを増やしていくため、体験ダイビングやライセンス講習、ファンダイビング、復興ダイビング等のプログラムを提供。女川や牡鹿半島の三陸沿岸をメジャーなダイビングポイントにしていきたいと、ダイビングスポットを開拓中。



事業成果

今後に向けて

2012年7月に石巻市の渡波にショップをオープン。海の復興状況にあわせながら、遺体捜索や水中清掃、ビーチ再生などのボランティアにも積極的に協力しつつ、営業活動を行っている。ダイビングでは海でまだ仕事が少ない漁師さんに船を出してもらうことで仕事づくりに貢献。ダイビングスポットを拡大しながら、三陸の海の魅力発掘とダイバーたちへのサービス拡大につとめている。レジャーのみならず、プロダイバーの養成や水中フォト講座など、大勢の仲間たちとともに海の復興に貢献している。



宮城ダイビングサービス High bridge

〒986-2135 宮城県石巻市渡波字栄田 146-8
☎ 0225-98-5830 (FAX 同)
<http://high-bridge111.com/>
営業時間 10:00-18:00 定休日：不定休



石巻

コミュニティスペースを開設し、 在宅被災者に集いと雇用の場をつくる

原田 豊 Yutaka Harada

東京都出身。自動車販売業を営んでいたが、震災を機に石巻へ。アモール石巻というチームに加入し、リーダーの一人としてボランティアコーディネートを担当。瓦礫撤去や泥だし、内装の解体、仮設住宅への引越作業などを、釜・大街道地区で実施。その後もコミュニティづくりをサポートするため石巻で活動することを決意。



事業概要

ボランティア活動を通じ、在宅被災者に対する支援の手薄さを痛感し、石巻市大街道地区にて在宅支援活動を継続している。2012年8月から築山にて、かつて泥だしやリフォームをお手伝いした住宅を活動拠点「たんぼぼの家」として運用。憩いの場所、フリースペースとして地域住民に開放しており、女性たちを中心に利用が広がっている。また、この拠点をベースに公園の美化や高齢者への見守りなど様々な活動を展開している。また、復興整備計画づくりの進捗状況や町内会やこども会など、行政や地域の団体からの情報提供も行っている。



事業成果

今後に向けて

コミュニティづくり支援をさらに進めるため「たんぼぼの家」に続く新たな拠点を開設。大街道東部にパチンコチェーン店の支援でトレーラーハウスを設置し、地元住民やボランティアの協力を得ながら改装作業を続けてきた。2013年3月、地域で暮らす、働く人たちの食事や集いの場として利用できるコミュニティスペースが完成。また、地元住民が食事提供を担当していただくなど、地域の雇用創出にもつなげていく。今後は障害者施設や仮設住宅での生産品の販売等も行い、地域の交流拠点として発展させていきたい。



一般社団法人 BIG UP 石巻

〒986-0857 宮城県石巻市築山 1-9-15 たんぼぼの家

☎ 0225-25-5585 (FAX 同)

<http://www.big-up-ishinomaki.jp/>

営業時間 10:00-18:00 定休日：不定休



宮城県

専門家とのネットワークで 中小零細企業の事業再建を応援する

浅田 史生 *Shisei Asada*



高校卒業後、上京し、広告代理店で営業職に従事。楽しく仕事をする傍ら、苦しんでやめる人が多数いることに気づく。部下・上司も辞める中で何もできない自分に限界を感じ退職。退職後、大学へ進学し心理学を学ぶ。現在、心理カウンセラーとして活動しながら、東北の事業者を支援している。

事業概要

震災後、弁護士、税理士、司法書士らと共に、仮設住宅で総合相談会を開催。地元の事業者に対して、二重ローンの対応や、助成金申請、補助金申請などを実施してきた。こうした中で、中小企業、零細事業者に事業再生のための支援が行き届いていない現状を知る。これら事業者の復興を推進するために、融資や助成金、補助金等の情報を収集し、提供する他、士業者等専門家とのマッチング役を担うことをめざし団体設立。現在は、石巻市雄勝町など沿岸市町の漁業の支援に重点を置いている。



事業成果

今後に向けて

事業再生支援の一環として、日本フードアナリスト協会との連携で、石巻雄勝のホタテ漁レポートと試食の会を実施するなど、海産物の販路拡大へ向けた取り組みに力を入れてきた。東北と、消費地である東京の橋渡しのためのイベントの開催や、食材購入のためのショッピングサイトもオープンさせた。今後は、沿岸市町の中小企業、零細事業者の販売支援も行いつつ、事業者の事業拡大のためのコンサルティングや、専門家とのマッチングにも力を入れていきたい。



Just be

〒983-0838 宮城県仙台市宮城野区二の森 2-20-302

☎ 080-2029-8985

<http://justbe.jp/>



石巻

被災したおかあちゃんたちが 暮らしの復興を目指し、縫い仕事を拡大

秋山 京子 *Kyoko Akiyama*

石巻市渡波在住。発災当日の14時まで、タクシー会社の無線通信の業務に従事していた。震災後は9ヶ月間、実家で生活していたが、その間は泥だしや瓦礫撤去に追われる日々を過ごす。現在の「おだってばりいで」の仲間と出会い、タオル地によるグッズ制作のグループを結成し、今に至る。



事業概要

「おだってばりいで」とは宮城弁で「ふざけてばかり」の意。もともと震災後に在宅避難していた女性たちで集まって、ワイワイ楽しく喋って過ごしたいという思いから始まった。大量に余った支援物資のタオルによる手芸から、活動がスタート。震災後に実感したこれまでの生活での「もったいない」という気持ちから「せっかく頂いたものを最後の切れ端まで使い切ろう」と考えるようになり、手づくりでのグッズ制作を手がけている。



事業成果

今後に向けて

活動当初は、「避難生活の中でみんなでものづくりをすることが精神的な心の癒しになる」という意味が大きかったが、震災後に職を失ったメンバーが多かったこともあり、今期は、新商品の開発や販路拡大など、事業としての成長をめざした。従来のタオル地の商品に加えて、寄付により入手した古着の着物地を使ったコースター製作も開始。また石巻市内の観慶丸や亀七などの店舗販売を継続するとともに、インターネットを通じて、直接販売するためのウェブサイトを立ち上げるなど、新たな取り組みを進めることができた。



おだってばりいで

〒986-0042 宮城県石巻市鹿妻2丁目1-7
☎ 0225-98-6544 (FAX 同)
<http://www.odatte.jp/>
営業時間 10:00-15:00 定休日：土・日



石巻

災害時移動支援事業を発展させ、 移動困難者を支える交通システムをつくる

村島 弘子 *Hiroko Murashima*

北海道札幌市生まれ。大学卒業後は児童会館の指導員として勤務。その後、アジアの独り歩き、農業・漁業・工業、アラスカ～中南米縦断、研究農場スタッフ等を経て、震災ボランティアに参加。当初は 2 週間の活動予定だったが、早くも 2 年が経過。Rera を石巻に根ざした「震災による新しい財産」にしたいと考えている。



事業概要

2011 年 3 月の大震災により、石巻地域だけで 6 万台の乗用車が流された。大量に発生した移動困難な方々のために、札幌のホップ障害者地域生活支援センターが母体となって移動支援ボランティア活動を開始。障害や高齢、体調不良などの理由でバス等の公共交通機関で移動するのが困難な方々などの手助けや移動支援をボランティアで行っている。車いす、ストレッチャー対応の福祉車両なども活用しながら、石巻市、東松島市、女川町にて活動。今期は、活動継続の一環として、高齢者や障害者に対する福祉有償運送事業の開始に向け、準備を進めている。



事業成果

今後に向けて

1 日 70 名～ 100 名の移動支援に継続して取り組み、延べ人数は約 4 万人を数える。その活動の様子は、テレビ等様々なメディアにも取り上げられた。災害時の移動支援のモデルケースをつくることをめざして、事業内容や人材育成を進めてきた。また、2013 年 2 月に NPO 法人化するなど組織基盤の強化も図ってきた。

震災前から、石巻地域は障害者・高齢者等の移動困難者を支える交通システムの空白地域だったが、今後、事業を展開していくことで、これまでよりも少ない負担で気軽に外出できる地域づくりを実現したい。



特定非営利活動法人移動支援 Rera

〒986-0855 石巻市大街道東四丁目 2 番 10 号 クレンビル 2 階
☎ 080-2872-1936
<https://www.facebook.com/ishinomaki.rera/>



石巻

被災した大漁旗を手仕事で再生 お母さんたちの希望と笑顔につなげる

田中 鉄太郎 *Tetsutaro Tanaka*

デンマーク・コペンハーゲン生まれ。独自にグラフィックデザインやアパレルデザインを学び、2009年、京都にて独自ブランド“OMUSUBI”を立ち上げ。震災でボランティアとして石巻を訪れ、大漁旗と運命的に出会い、自身の経験を活かした大漁旗ブランド「結日丸」をスタートさせる。



事業概要

大漁旗を活用した手仕事品の製作、販売。製品は全て石巻で制作し、石巻発のニッポンブランドとして展開。代表的な商品はトートバッグ、ブレスレット、マリンキャップなど。

石巻在住の7名の方々と石巻をこよなく愛する2名の協力により商品を生産。震災前には牡蠣の養殖、ウエットスーツ工場の縫製の仕事に携わっていた渡波地区のお母さんたちを雇用し、経済的、精神的な自立にも寄与している。



事業成果

今後に向けて

商品は、自社のウェブショップほか、復興デパート内の石巻元気商店、イベント出店などを通じて販売。「大漁旗ブレスレット」は累計5000本以上の販売を突破し、YAHOO! ショッピング復興デパートメント賞を獲得。2012年12月には、石巻市内に新たな工房兼店舗を開設。新商品の開発、販売につなげている。

大漁旗はもともと新造船の進水式でお祝いとして贈られる漁師の誇りであり、船出を意味するおめでたいもの。これらの再生と商品のヒットは、石巻に新たな活力を与えている。



結日丸（むすびまる）

〒986-0822 宮城県石巻市中央1丁目4-3 funade studio
☎ 080-6536-1300
✉ musubimaru311@gmail.com
<http://wasshoy-style.jp/>



石巻

市民メディアづくりを通じて 住民主役の「まちづくり」の実現をめざす

大矢 中子 *Nakako Ohya*

東京都生まれ。元銀行員。震災前は東京で Ustream を利用した映像制作、配信会社を経営。仙台で参加していたお茶会の友人の被災を契機に、石巻でのボランティア活動に従事。被災地をメディアでつなぐプロジェクト「笑顔 311」のプロジェクトをスタート。仙台の大学生をまきこみ、映像配信事業で東北と日本の復興に挑戦。



事業概要

震災直後の 2011 年 4 月 11 日から、東北大学・東北学院大学を中心とする大学生たちに機材とノウハウの提供を行い、全国で震災に関心を持つ人々に向けて被災 5 県の様子を自分事として捉えてほしいと震災復興情報番組「IFIAM」を実施。毎週木曜 21 時から欠かさず放送してきた。現在では、番組制作に携わる大学生たちとともに、東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) の東北三県での現地会議や、広域避難者支援ミーティングなど、被災者支援や復興をテーマとした様々なイベント、会議等の Ustream 中継を手がけている。



事業成果

今後に向けて

石巻市内に、住民主役の「復興」「まちづくり」の実現に寄与する市民メディアづくりを進める拠点を開設。さまざまな復興イベントの中継を事業として請け負うなど、収益確保の仕組みもつくることのできた。

この他、佐賀県の中学校の道徳の時間に石巻商店街と気仙沼の小学校をインターネットストリーミング中継でつなぎ、防災の知識や知恵を交流する機会づくりも行う。結果、佐賀県の中学生たちが石巻の物産を手売りしたり、石巻の被災女性が手作りしたコサージュを卒業式で使用するなど、被災地と他地域の新たなつながりを生んでいる。



特定非営利活動法人メディアージ

〒986-0813 宮城県石巻市駅前北通り 3-3-23 (旧) 茶ろんもも
<https://www.facebook.com/NPOmediage/>



東松島

民家預かり型デイサービスで 仮設住宅のお年寄りへやすらぎを提供する

貴田 義人 *Kida Yoshihito*

東松島市在住。同市にて「やもと整骨院」を営業中。震災後、一時は経営的に危機を迎えたものの、なんとか持ち直す。これまで支えて下さった地域の方々のために感謝をこめて雇用創出を志すとともに、今後の社会的課題として介護事業に着目。民家を活用した小規模のデイケアサービスをスタートさせた。



事業 概要

震災前は元気だった高齢者の方が、仮設住宅での生活とこれまでの生活のギャップでふさぎ込んでしまった様子を、整骨院での診療を通して多く見てきた。そこで、やすらぎと癒しの場を提供できる民家改修型デイサービス「ぬくもり」を2013年2月より新たに事業開始。震災前には当たり前だった一軒家ならではの家庭的な空間と居心地の良さや利用者にも料理や洗濯、庭いじりなど生活の一部に関わっていただくことで、生きがい・やりがいを感じられるサービスを提供。24時間365日体制で利用者やご家族の方々の細かなニーズにも対応する。



事業 成果

今後に向けて

一般的なデイケアセンターと異なり、送迎には一般の乗用車を使用し、施設も外見的には普通の一軒家であるため、ご家族の方々が気兼ねなく利用できている。また、スタッフ4名体制、最大定員10名と小規模であることから、急な宿泊対応や時間延長にもきめ細かい対応ができており、利用者や利用者家族から大変喜ばれている。

この地域には、これまでなかった介護業界でも新しい業態のデイケアであるため、今後は告知宣伝等をおこない、認知度のアップをはかっていく予定。



株式会社フェニックスエレメント デイサービスぬくもり

〒981-0503 宮城県東松島市矢本河戸 342-2
☎ 0225-83-5980
http://www.yamoto-seikotsuin.com/day_service/
営業時間 24時間365日営業



南三陸

南三陸町のファン拡大をめざし、 南三陸町イチオシの海産物を通販する

阿部 民子 Tamiko Abe

山形県生まれ。南三陸町戸倉に嫁ぎ、三人の子どもを育てながら牡蠣・ワカメ・帆立等の養殖漁業に従事して 28 年。震災後に漁業設備や自宅を失い、人を呑みこむ海が怖くなるが、これから先を考えた時、迷い、たどりついた答えが、やっぱり海に携わる仕事だった。南三陸町イチオシの海産物を取り揃えた通販事業を開始。たみこのファンを増やす事で南三陸町のファン獲得をめざしている。



事業概要

震災で漁業設備を失い、また被災後数年は共同事業の為、養殖物を自由に販売することができない状況がある。そのため、町内で複数の水産加工業者と提携し、四季折々の旬の南三陸イチオシの海産物を厳選したセレクトショップ「たみこの海パック」として営業・販売を行っている。新鮮で美味しいと評判のアワビや帆立、イクラ、ワカメなどを組み合わせた魅力的な商品展開が強み。

震災後に覚えたホームページや facebook を活用して、南三陸の日々の暮らしを発信している。



事業成果

今後に向けて

2012 年 10 月に通信販売をオープン。パートタイマー 1 名を雇用し、地元の雇用に貢献している。今後は戸倉地区の漁業再生のためにワカメやメカブの販売や商品開発に注力していきたい。単に商品を宅急便で届けるだけに留まらず、南三陸の現状を伝え、南三陸ファンを獲得するためのニュースレター「たみこの四季だより」や食材を活かした料理の参考となる誰にでもできる簡単レシピを添付して、好評を得ている。各地方から講演の依頼や出張販売の依頼も増え、リピーターも増えて来ている。



たみこの海パック

〒986-0781 宮城県本吉郡南三陸町戸倉長清水 9-3
☎ 0226-46-9661 (同 FAX)
<http://www.tamipack.jp/>
営業時間 9:00-17:00 定休日：日曜祝日



仙台

民宿経営の経験を活かし、 安心安全、手作りにこだわった夕食を宅配

小野 美紀 *Miki Ono*

仙台市在住。東松島市で民宿や海苔養殖業を営んでいたが、震災で自宅を含め全て流出。民宿では和・洋・中華・精進料理・デザートやケーキに至るまで幅広く手がけてた。また、かつて2歳～96歳までの3世代家族に安心安全な料理を提供してきた自負もあり、食での起業を決意。フードコーディネーター、食生活アドバイザー。



事業概要

震災前からご縁のあった美容室兼ネイルサロンの経営者から「ケーキやパンを製造販売してほしい」という依頼を受けたこときっかけに、仙台市内で活動を始める。その後、東松島をはじめとする宮城県内の新鮮な食材を使い、共働きのご家庭向けに夕食を宅配する事業を構想。東松島市で経営していた民宿の仲間2名を誘い、夕食宅配を行う「こゆゆ」をオープンさせた。現在は、シフォンケーキなどのデザートの提供を行う「パルティール」と合わせ、2つの店舗を運営している。



事業成果

今後に向けて

2013年1月、オフィス街と住宅地が混在する仙台市宮城野区に店舗をオープンさせた。夜は共働きのご家庭を対象とした夕食宅配を1食850円にて提供する他、昼間はオフィス街向けに500円程度のお弁当販売、午後はデザートとしてシフォンケーキの製造販売も新たに開始した。いずれも食材にこだわった料理が自慢。人気商品のシフォンケーキは、Yahoo!復興デパートメント内の石巻元気商店にて2013年4月より取扱開始する。また、土曜は「パンの日」として営業を計画するなど順調に事業を展開している。



こゆゆ

〒983-0044 宮城県仙台市宮城野区宮千代3丁目9-11

☎ 022-353-5040 (FAX 同)

<http://www.coyuyu.com/>

営業時間 9:00-18:00 定休日：日曜 (オードブルのご注文には応相談)



南三陸

津波被害のレストランを再生し、 住民が気軽に集まれる場所をつくりだす

三浦 さき子 *Sakiko Miura*

南三陸町戸倉地区の波伝谷にある農家で生まれ育つ。幼少期にチリ津波を経験。志津川漁協戸倉支部の婦人部元部長、志津川町母子福祉会会長、波伝谷仮設自治会会長をつとめる。生まれ育った南三陸戸倉が「大好き！」という一心で、津波で失った農漁家レストランの再開に向けて取り組んでいる。



事業概要

志津川町戸倉にて経営していた農漁家レストラン「慶明丸」は四季折々、地元の新鮮で旬な海の幸、山の幸を素材とした料理や自家製どぶろくを提供する完全予約制のレストランとして賑わっていたが、震災ですべてを失った。

しかし、「慶」という文字を記した看板の浮き球がアラスカに漂流していることがわかり、その後手元に戻ってきたことで、慶明丸の再開を決意した。仮設住宅に暮らす住民に、軽食や喫茶を提供する食堂経営を開業し、当該地区で気軽に集まれる場所づくりをめざす。



事業成果

今後に向けて

現在、2013年春のオープンにむけて準備中。戸倉地区は南三陸町内でも志津川地区とならび、75%ともっとも高い罹災率。波伝谷はなかでも最大級の被害を受けた地域で、住民もほとんどすべてを失ったに等しい状態。そのため、震災前の「慶明丸」をただ単に復活させるだけではなく、地元の人々がゆったり過ごす憩いの場として、また、支援に訪れたボランティアさんたちが再び戻って来られる場所となるよう開設準備を進めている。また、被災体験を後世に語り継ぐ、語り部の活動も採り入れるなど、ユニークな場づくりにも取り組みたい。



農漁家レストラン 慶明丸

〒986-0781 宮城県本吉郡南三陸町波伝谷
2013年春オープン予定

石巻

被災したまちを明るくするため ハワイアンやリゾートウェアを製作、販売

阿部 友美 Yumi Abe

石巻市出身、東松島市在住。幼少からの手芸好きが高じて高校の家政科、ドレスメーカーの専門学校へ進学。卒業後はサイパンのブティックで3年間、ファッションデザイナーとして生地仕入れからリゾートウェアの製作までを行い、帰国後は縫製工場でパタンナーとして働く。「ハワイアンやフラでまちを明るくしたい!」と起業。



事業概要

勤務先の縫製工場が津波被害で営業再開できないため、自宅にアトリエを設けてハンドメイドの衣類や小物、バッグ類の製作・販売に取り組んでいたころ、フラダンス講師をしているお客様と知り合い、パウスカートやフラドレスなどを縫ったことをきっかけに、「石巻を明るくできる」と、南国リゾートやハワイアンをテーマに事業を構想。地元石巻での店舗販売、また全国に

向けてネット通販にとりくみ、製造から販売までを手がけるSPA型事業モデルを展開する。



事業成果

今後に向けて

2012年12月、石巻市のホシノボックスピア1Fに南国リゾートをコンセプトとした洋服・雑貨・フラダンス衣装の商品を取り揃えたお店「アトリエ阿友美」をオープン。また、同名のネットショップも現在営業中。パウスカート、ドレス、シュシュなど、ハワイアンやフラダンスにまつわる衣類・小物・バッグ・雑貨を多数展開している。また店舗内でハワイアンファブリックを中心とした商品を製作・縫製などを手がけている。製作過程では被災女性、特にシングルマザーの在宅雇用を生み出すことにも寄与。店舗内には子どもが遊べるスペースを用意し、気さくに入れて皆さんが集えるコミュニティーづくりもめざしている。



株式会社阿友美 アトリエ阿友美

〒986-0822 宮城県石巻市中央2丁目8-2 ホシノボックスピア内
☎ 0225-98-6057 (FAX 同)
<http://www.atelier-ayumi.com/>
営業時間 10:00-18:00 定休日：火曜・第2第4日曜日



石巻

仮設住宅入居者、在宅避難者が ゆっくりお茶っこだできる憩いの場を提供

阿部 美幸 *Miyuki Abe*

石巻市渡波在住。石巻市で水産業を営んでいたが震災で被災。震災後、約 5 カ月間の避難生活で「好きなことをしたい」、「好きな仕事で生きていきたい」という想いが高まる。その後、地域で仮設住宅や在宅避難者と接する中で、高齢の方々に対する食事提供を始める。「この取り組みを仲間たちとの仕事にしたい!」と考え、起業を決意。



事業概要

被災後の避難生活が長引き、冷たい食事が出されることが多くなるにつれ、子どもや高齢者たちが身体の不具合を訴えることが多くなった。そんな状況を改善するために、働くことができる女性たちを集めて、温かい食事の提供に取り組む。仮設住宅は狭くて集まることができない、ショッピングセンターも喧騒で落ち着くことができない、仮設住宅で一人きりのご老人たちが出歩くきっかけが必要、という状況のなか、みんなで集まってゆっくりお茶っこだできる場所、憩いの場を提供しようと、喫茶店の営業を行っている。



事業成果

今後に向けて

居酒屋を廃業した知人から居抜きで物件を借り、喫茶店を開業した。店名の「カフェ1ねん1くみ」は、元のお店の名前が「居酒屋1ねん1くみ」だったこと、また起業1年目を記念する意味で命名。

2012年11月30日にプレオープンし、12月10日にランドオープンを果たす。店舗のある渡波地域は石巻市内でも最も罹災率が高いことから、子連れのお母さん達が立ち寄ったり、1人で気楽に入れるお店としても重要な存在になっている。

今後は一人暮らしのご老人を対象にお弁当の配達なども手がけていきたいと考えている。



カフェ1ねん1くみ

〒986-2135 宮城県石巻市渡波町3丁目4-18

☎ 0225-98-8157

<http://cafe1no1.com/>

営業時間 11:00-17:00 定休日：不定休



石巻

地域の新たな産業創出をめざし、 雄勝石を利用した新しいプロダクトを製作

平野 愛智 *Aichi Hirano*

横浜市出身。写真専門学校、制作スタジオを経てカメラマンとして独立。2011年、「写ルンです」を被災地住民に託す撮影企画「ROLLS TOHOKU」実施。「第51回消費者のためになった広告コンクール」雑誌広告部門金賞を受賞。クリエイターユニット“grid”を結成、『OGATSU』に取り組む。



事業概要

石巻市雄勝町に雄勝石（硯石）を使った新しいプロダクトブランドを立ち上げ、製作を宮城県内の地元住民が担うことにより、地域に新しい産業と雇用を生み出すことを目的としている。『OGATSU』というブランドと雄勝という土地の認知度が高まり、ファンが増えることによって、雄勝法印神楽を代表とする伝統芸能や雄勝硯といった伝統工芸品のほか、海産物販売などその他産業などと相乗効果を生み、地域全体の底上げに繋げていくことをめざす。



事業成果

今後に向けて

雄勝石は、手に持ったときにズシッとくる手応えや質感が魅力だが、もろくて柔らかいクセのある石。商品のデザインとして実現可能で、なおかつ量産した際に一定のクオリティを表現できるものを模索している。加えて、材料の安定的な仕入れや加工技術が課題であったが、これらを解決した試作商品として雄勝石のコースターが完成。日本らしい繊細な紋様をモチーフとして、非常にプレミアム感のある商品として仕上がっている。販路や販売方法、プロモーションに関しては今後の課題として取り組む予定。



grid

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 5-8-2-202

✉ mail@grid-japan.com

http://grid-japan.com/



石巻

教員志望の学生たちによる 被災児童・生徒へ出張スタディーサポート

門馬 優 *Yu Momma*

石巻市出身。早稲田大学大学院教職研究科を2013年3月に修了。在学中にキャリア教育支援を行うNPOにて活動し、年間100校以上の高校向けプログラムや大手教育出版社向けの研修、大学での初年次教育プログラムを担当。震災後はTEDICを立ち上げ、石巻市を中心に小中高校生に向けて学習支援事業を行う。



事業概要

2011年に団体を立ち上げ、石巻や女川、七ヶ浜、登米の避難所やお寺にて、被災児童・生徒への学習支援活動を開始。その後、避難所から仮設住宅等へ生活の基盤が移った後も、石巻市内の複数の地域で、学習支援活動を継続している。

運営に際しては、教員をめざす多数の学生たちがボランティアとして参加。行政、NPOからの委託費や、助成金、寄付などを活用して、ご家族や子どもたちの費用負担を抑えてきた。現在、活動を継続し、支援活動の質を高めるため、収益事業や支援者のまきこみなどについて検討している。



事業成果

今後に向けて

石巻市内にて約50名の子どもの学習を支援。また2012年3月には、福島県いわき市にも支部を立ち上げ、活動を開始した。2013年4月からはNPO「Teach For Japan」と連携協力が決定するなど、活動の幅を広げている。

また、これまでのべ約60名の若者に学習支援ボランティア機会を提供。活動経験者がその後、北海道・千葉・三重・広島などの学校現場で教師として活躍するなど、若者の人材育成にも寄与。

この他、石巻市内に拠点となる事務所を開設。また、NPO法人として認証申請するなど、組織基盤の強化も図った。



TEDIC (Teacher Education Ishinomaki Campus)

〒986-0832 宮城県石巻市泉町2丁目7-24

☒ info@npo-tedic.net

http://www.tedic.jp/

